(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2015-226725
(P2015-226725A)
(43)公開日　平成27年12月17日(2015.12.17)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A45D 33/00	(2006.01)	A45D	33/00	615Z

審査請求 未請求　請求項の数 9　ＯＬ　（全 14 頁）

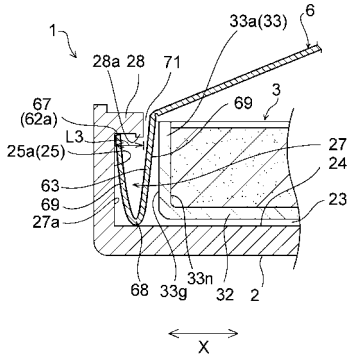
(21)出願番号　特願2014-114457 (P2014-114457)
(22)出願日　平成26年6月2日 (2014.6.2)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100076532
弁理士　羽鳥　修
(74)代理人　100112818
弁理士　岩本　昭久
(74)代理人　100101292
弁理士　松嶋　善之
(74)代理人　100107205
弁理士　前田　秀一
(74)代理人　100155206
弁理士　成瀬　源一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】化粧用コンパクトケース

(57)【要約】
【課題】簡易な構成でありながら保護シートの脱落を確実に防止することができるとともに、化粧料収容皿の上面を開閉する操作を繰り返しても、保護シートに破断や劣化が生じにくい化粧用コンパクトケースを提供すること。
【解決手段】化粧料収容皿３と、化粧料収容皿３が収容された皿収容部２３を有するケース本体２と、蓋体と、化粧料の蓋体への付着を防止する保護シート６とを備えた化粧用コンパクトケース１であり、皿収容部２３の内壁面２５に、窪み２７及び該窪みの上側に張り出す張り出し部２８が形成されており、保護シート６は、化粧料収容皿３と皿収容部の内壁面２５との間に挿入された挿入部分６３を有しており、該挿入部分６３に、張り出し部２８に係合する抜け防止部６９を有することによって、ケース本体２に固定されている。
【選択図】図４



【特許請求の範囲】
【請求項１】
化粧料収容皿と、該化粧料収容皿が収容された皿収容部を有するケース本体と、蓋体と、化粧料の蓋体への付着を防止する保護シートとを備えた化粧用コンパクトケースであって、
前記皿収容部の内壁面に、窪み及び該窪みの上側に張り出す張り出し部が形成されており、前記保護シートは、前記化粧料収容皿と前記皿収容部の内壁面との間に挿入された挿入部分を有し、該挿入部分に、前記張り出し部に係合する抜け防止部を有することによって、前記ケース本体に固定されている、化粧用コンパクトケース。
【請求項２】
前記保護シートは、前記張り出し部と前記化粧料収容皿の外壁面との間の隙間を通って、前記窪み内まで挿入されている、請求項１に記載の化粧用コンパクトケース。
【請求項３】
前記保護シートは、前記挿入部分を前記化粧料収容皿と前記皿収容部の内壁面との間に挿入する挿入時の形態において、該挿入部分は、挿入方向先端側の幅が基端側の幅に比べて短くなっている、請求項１又は２に記載の化粧用コンパクトケース。
【請求項４】
前記抜け防止部は、前記挿入部分の折り返された部分である、請求項１～３の何れか１項に記載の化粧用コンパクトケース。
【請求項５】
前記張り出し部は、前記窪み側の面に、前記抜け防止部を該窪み内から抜けにくくする抜け防止手段を有する、請求項１～４の何れか１項に記載の化粧用コンパクトケース。
【請求項６】
前記抜け防止手段が、下向きに突出した凸部、又は、張り出し方向の基端側が上、先端側が下になるように傾斜した傾斜面である、請求項５に記載の化粧用コンパクトケース。
【請求項７】
前記保護シートの前記挿入部分の幅Ｗ２が、前記皿収容部に形成された前記窪みの長さＬ３の、７０％以上１００％未満である、請求項１～６の何れか１項に記載の化粧用コンパクトケース。
【請求項８】
前記皿収容部の内壁面に隙間形成用の凸部が設けられており、該凸部は、前記化粧料収容皿を該皿収容部に配置する際に、該化粧料収容皿の外壁面を、該凸部に当接させることにより、前記皿収容部の前記張り出し部と前記化粧料収容皿の外壁面との間の隙間の幅を、予め決められた所定の値とすることができるように設けられている、請求項２又は請求項２を引用する請求項３～６の何れか１項に記載の化粧用コンパクトケース。
【請求項９】
前記化粧料収容皿は、前記皿収容部から取り外し可能である、請求項１～８の何れか１項に記載の化粧用コンパクトケース。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、化粧用コンパクトケースに関する。
【背景技術】
【０００２】
ファンデーション、チーク、アイシャドウ等の化粧料を収容する化粧用コンパクトケースとして、化粧料が収容された薄型の化粧料収容皿と、化粧料収容皿が収容される皿収容部を有するケース本体と、ケース本体に開閉可能に取り付けられた蓋体と、化粧料の蓋体への付着を防止する保護シートとを備えたものが知られている。
【０００３】
また、保護シートを、紛失や落下を防止するため化粧用コンパクトケース内に固定する

ことも行われており、その固定方法として種々のものが提案されている。
例えば、保護シートに、化粧料収容皿とそれを収容する皿収容部との間に挿入する挿入片を形成し、該挿入片の一部を、皿収容部の内壁面や底部に接着剤で固定する方法があり、特許文献１には、保護シートの挿入片を皿収容部と化粧料収容皿の底部で挟持するコンパクト容器が記載されている。
【０００４】
また、特許文献２には、化粧料収容皿の支持枠に膨出部と平坦な上壁とを備え、膨出部の所定の箇所に下面をえぐった防漏壁が設けられ、膨出部と上壁との間にスリットが設けられている化粧用コンパクトケースが記載されており、同文献２の化粧用コンパクトケースにおいては、化粧料収容皿を覆うカバーシート（保護シート）における、先端両側に係止片を有する支持部を湾曲させて前記スリットに挿入することにより、該カバーシートをスリットに取り付け可能である。
また、特許文献３には、容器本体内に中枠を嵌合して、化粧料収容部と保護シート収容部を形成するとともに、保護シートを、容器本体と中枠の保護シート収容部の側端部とで挟持して固定したものが記載されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００５】
【特許文献１】特開２００４－２５５０６１号公報
【特許文献２】特開２００２－６５３４８号公報
【特許文献３】実開平３－９９５０８号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００６】
しかし、特許文献１の技術は、保護シートを貼り付ける際の位置決めが難しく、保護シートが曲がった状態に固定されやすい。
また、保護シートを接着剤で固定する場合は、シートの接着工程に手間がかかるため、化粧用コンパクトケースの製造効率が悪い。また、接着剤で固定した保護シートが破断したり劣化したときに、元のシートを取り外して新しいシートを取り付けることも困難である。
また、特許文献２の技術は、化粧料収容皿及びケース本体とは別の部品である支持枠が必要であるため、製造コストの削減の点で好ましくない。また特許文献３の技術は、保護シートを挟持固定するため、容器本体と中枠を複雑な構造にする必要があり、またコンパクト容器の組立も複雑である。
【０００７】
本発明の課題は、前述した従来技術が有する欠点を解消し得る、化粧用コンパクトケースを提供することにある。
【課題を解決するための手段】
【０００８】
本発明は、化粧料収容皿と、該化粧料収容皿が収容された皿収容部を有するケース本体と、蓋体と、化粧料の蓋体への付着を防止する保護シートとを備えた化粧用コンパクトケースであって、前記皿収容部の内壁面に、窪み及び該窪みの上側に張り出す張り出し部が形成されており、前記保護シートは、前記化粧料収容皿と前記皿収容部の内壁面との間に挿入された挿入部分を有し、該挿入部分に、前記張り出し部と係合する抜け防止部を有することによって、前記ケース本体に固定されている、化粧用コンパクトケースを提供するものである。
【発明の効果】
【０００９】
本発明の化粧用コンパクトケースは、組み立てが容易であり、また化粧用コンパクトケースの使用者（消費者）が保護シートを交換する場合にも保護シートの固定が容易である

。
【図面の簡単な説明】
【００１０】
【図１】本発明の第１実施形態に係る化粧用コンパクトケースの、ケース本体に、化粧料収容皿及び保護シートを取り付ける前の状態を示す斜視図である。
【図２】図１に示す化粧用コンパクトケースの、ケース本体に、化粧料収容皿及び保護シートを取り付けた後の状態を示す斜視図である。
【図３】図２のIII－III線に沿う断面を一部省略して示す拡大断面図である。
【図４】図３の一部を更に拡大して示す部分拡大断面図である。
【図５】図１に示す化粧用コンパクトケースに用いた保護シートを示す図で、（ａ）は、折り返された部分を延ばした状態として示す平面図、（ｂ）は、挿入部分の一部を折り返した状態として示す平面図である。
【図６】図１に示す化粧用コンパクトケースにおける皿収容部及びその内部に収容された化粧料収容皿を示す平面図である。
【図７】本発明の第２実施形態に係る化粧用コンパクトケースの、皿収容部及びその内部に収容された化粧料収容皿を示す平面図（図６相当図）である。
【図８】本発明の更に別の実施形態における皿収容部及びその内部に収容された化粧料収容皿を示す平面図（図６相当図）である。
【図９】本発明の更に別の実施形態を示す図であり、（ａ）は、保護シートを固定した状態の（ｃ）のＡ－Ａ線に沿う断面図、（ｂ）は、保護シートの平面図、（ｃ）は、皿収容部及びその内部に収容された化粧料収容皿を示す平面図（図６相当図）である。
【発明を実施するための形態】
【００１１】
以下本発明をその好ましい実施形態に基づき図面を参照しながら説明する。
本発明の第１実施形態である化粧用コンパクトケース１は、図２及び図３に示すように、化粧料収容皿３と、該化粧料収容皿３が収容された皿収容部２３を有するケース本体２と、蓋体５と、化粧料の蓋体５への付着を防止する保護シート６とを備える。
化粧料収容皿３は、図１に示すように、上面が開口した深さの浅い薄型の容器であり、内部に、ファンデーション、チーク、アイシャドウ、コンシーラー等の化粧料３１が収容されている。また、化粧料収容皿３は、底部３２と周壁部３３とを有し、周壁部３３は、一端が底部３２よって閉鎖され、他端は、解放されて上方に向かって開口する開口部を形成している。化粧料収容皿３の周壁部３３は、図４に示すように、化粧料側に向けられる内面３３ｎと、皿収容部２３の内壁面２５側に向けられる外面３３ｇとを有しており、周壁部３３の外面３３ｇが、化粧料収容皿３の外壁面を構成している。
【００１２】
化粧料収容皿３及び皿収容部２３は、何れも平面視して矩形状（正方形又は長方形状）である。
皿収容部２３は、図１に示すように、底部２４と内壁面２５とを有する。また、皿収容部２３の内壁面２５は、化粧用コンパクトケース１を正面Ｍ側から視て左右両側に位置する第１及び第２の側面部２５ａ，２５ｂと、同正面Ｍ側から視て前後に位置する前面部２５ｃ及び後面部２５ｄを有している。化粧料収容皿３は、皿収容部２３内に収容されており、その周壁部３３は、第１の側面部２５ａに対向配置される第１外壁部３３ａと、２５ｂに対向配置される第２外壁部３３ｂと、前面部２５ｃに対向配置される第３外壁部３３ｃと、後面部２５ｄに対向配置される第４外壁部３３ｄとを有している。図３に示すように、本実施形態における化粧料収容皿３は、底部３２が接着剤３０を介して皿収容部２３の底部２４に固定されている。蓋体５は、連結部５２において、ケース本体２に対して回動自在に連結され、回動させることにより、ケース本体２の上面を開閉自在である。連結部５２は、ケース本体２の一部を切り欠いた部分に、蓋体５から垂下させた部分を入れ、該垂下させた部分の左右をピンでケース本体２と連結させることで形成されている。連結部５２の構造は特に制限なく、例えば、蓋体５を切り欠いた部分と、ケース本体２から立

ち上げた部分とを連結させてもよく、またピンを使わずに蓋体５又はケース本体２に嵌合する部分を形成してもよく、別部材から連結部を形成してもよい。化粧用コンパクトケース１の正面Ｍ側とは、化粧用コンパクトケース１を用いて化粧をする際に、使用者の胴体側に配される側であり、ケース本体２と蓋体５とを連結する連結部５２側から遠い側である。

【００１３】

本実施形態における蓋体５には、閉蓋時にケース本体２側を向く内面に鏡５１が設けられている。また、ケース本体２の、連結部５２側とは反対側に位置する正面部には、蓋体５に設けられた係着爪５３が係止される被係着部２１’を備える係着切欠き部２１が形成されており、係着切欠き部２１には、押圧により係着爪５３と被係着部２１’との係止状態を解除する係合解除ボタン２１ａが設けられている。また、本実施形態におけるケース本体２は、皿収容部２３に加え、化粧料の塗布具４を収容する塗布具収容部２２を備えている。化粧料の塗布具４としては、化粧料の種類に応じて適切なものが用いられ、例えば、化粧料３１が、ファンデーションである場合には、図１に示すような、パフと呼ばれるスポンジ状の塗布具が好ましく用いられる。

【００１４】

保護シート６は、図３及び図５（ａ）に示すように、蓋体５の閉蓋時に化粧料収容皿３の上面を覆う本体部分６１と、本体部分６１から突出する取り付け片６２とを有している。取り付け片６２は、保護シート６を、化粧用コンパクトケース１に取り付けるための部分であり、図３及び図４に示すように、基端６２ｂ近傍に設けられたヒンジ部６６付近よりも先端６２ａ側に位置する部分が、化粧料収容皿３と、皿収容部２３の内壁面２５との間に挿入された挿入部分６３となっている。

より具体的には、保護シート６の挿入部分６３は、化粧料収容皿３の第１外壁部３３ａの外面３３ｇと、皿収容部２３の内壁面２５の一部である第１の側面部２５ａとの間に挿入されている。本体部分６１から突出する取り付け片６２は、本実施形態におけるように、その一部分（基端６２ｂ側の一部を除く部分）が挿入部分６３とされていても良いが、取り付け片６２の全体が挿入部分６３とされていても良い。

また、皿収容部２３の内壁面２５、より具体的には第１の側面部２５ａには、図１及び図４に示すように、窪み２７及び該窪み２７の上側に張り出す張り出し部２８が形成されている。そして、保護シート６の挿入部分６３は、図４に示すように、張り出し部２８と化粧料収容皿３の第１外壁部３３ａの外面３３ｇ（化粧料収容皿の外壁面）との間の隙間７１を通って、窪み２７内まで挿入されている。なお、窪み２７の上側とは、皿収容部２３の深さ方向において底部２４から遠い側である。また、保護シート６の本体部分６１における取り付け片６２を有する側とは反対側には、楕円形を半分にした形状の摘み部６０が形成されている。

【００１５】

窪み２７は、張り出し部２８の下側に形成された空間であり、張り出し部２８は、窪み２７の上面を形成している。

本実施形態における皿収容部２３は、図１に示すように、窪み２７及び張り出し部２８は、何れも皿収容部２３の深さ方向と直交する水平方向に長い形状を有しており、また、窪み２７及び張り出し部２８が、何れも平面視矩形状の皿収容部２３の一辺の全長に亘って形成されている。また、図４に示すように、張り出し部２８は、化粧料収容皿３をその高さを２等分して上部と下部とに区分したときの上部と相対向するように形成され、より詳細には、皿収容部２３の開口部の周縁部から内方に張り出すように形成されている。

【００１６】

張り出し部２８は、保護シート６の抜け防止の観点から、その突出長さＬ３（図４参照，化粧料収容皿３の外壁面３３ｇと相対向させる窪み内の壁面２７ａから、張り出し部２８の先端までの距離，窪み２７の深さに同じ）が、好ましくは０．５ｍｍ以上、より好ましくは０．７ｍｍ以上、更に好ましくは１ｍｍ以上である。また、突出長さＬ３は、好ましくは１０ｍｍ以下、更に好ましく３ｍｍ以下である。また、同観点から、突出長さＬ３

は、張り出し部２８の下面から化粧料収容皿３の下面の位置までの長さよりも短いことが好ましく、また突出長さＬ３は、保護シート６の挿入部分６３の先端縁６７から折り返し部６８までの距離より短いことが好ましい。

【００１７】

また、保護シート６の挿入部分６３は、図５に示すように、取り付け片６２の突出方向の先端６２ａ側から基端６２ｂに向かって順に、先端縁６７、折り返し部６８、ヒンジ部６６を有しており、化粧用コンパクトケース１に取り付けられた状態の挿入部分６３は、図４に示すように、折り返し部６８で、皿収容部２３の内壁面２５側に折り返された状態となっている。そして、本実施形態における保護シート６は、挿入部分６３における、折り返し部６８より先端６２ａ側に位置する折り返された部分６９が、皿収容部２３の張り出し部２８の下側に係合することによって、保護シート６が化粧用コンパクトケース１から脱離し難いようになっている。即ち、保護シート６は、化粧料収容皿３が皿収容部２３内に固定されるとともに、挿入部分６３の折り返された部分６９が本発明における抜け防止部として機能することによって、ケース本体２に固定されている。

ここでいう、張り出し部２８の下側への係合は、挿入部分６３の折り返された部分６９（抜け防止部）が、常時、張り出し部２８と接触していなければならないことを意味しない。即ち、挿入部分６３の抜け防止部は、その一部が常時張り出し部２８の下側と接触しているものであっても良いが、保護シート６に引き抜く力が加わったときのみ、一部が張り出し部２８と接触して、保護シート６の抜けを防止できるものであっても良い。

【００１８】

本実施形態の化粧用コンパクトケース１は、図６に示すように、ケース本体２の皿収容部２３内に、化粧料収容皿３を収容するとともに、化粧料収容皿３を、皿収容部２３の張り出し部２８と化粧料収容皿３の第１外壁部３３ａ（周壁部３３）との間の隙間７１の幅Ｗが、予め決められた所定の幅となるように接着剤３０を介して固定し、その隙間７１に、図５（ｂ）及び図１に示すように、保護シート６の取り付け片６２を、折り返し部６８で折り返した状態で挿入することにより組立（製造）可能である。化粧料収容皿３は、蓋体５が連結されたケース本体２の皿収容部２３内に固定する。

【００１９】

本実施形態の化粧用コンパクトケース１を用いて化粧を行うには、蓋体５を開き、保護シート６を、ヒンジ部６６及びその近辺を回動軸にして回動させて、化粧料収容皿３の化粧料の上面を露出させる。そして、塗布具収容部２２から取り出した塗布具４や別に容易した塗布具を用いて、化粧料を、蓋体５に設けられた鏡５１を見ながら肌面に塗布する。化粧後には、保護シート６で化粧料収容皿３を覆い、蓋体５を閉じる。

【００２０】

本実施形態の化粧用コンパクトケース１によれば、保護シート６が、化粧料収容皿３と皿収容部の内壁面２５との間に挿入された挿入部分６３を有し、挿入部分６３の折り返された部分６９（抜け防止部）が、張り出し部２８の下側に係合することによって、挿入部分６３が抜けないようになされているため、保護シート６が引っ張られても、挿入部分６３が、化粧料収容皿３と皿収容部の内壁面２５との間から簡単には引き抜かれない。即ち、簡易な構成でありながら保護シート６の脱落を確実に防止することができる。

このような挿入部分６３の抜け防止効果は、張り出し部２８の下側に係合する部分が、挿入部分６３の折り返された部分６９である場合に一層顕著である。

【００２１】

また、本実施形態の化粧用コンパクトケース１によれば、保護シートの取り付け孔を形成するために、化粧料収容皿やケース本体とは別に保護シート固定用の部品を用意する必要がない。また、ケース本体及び化粧料収容皿の形態をそれほど複雑化させないため、ケース本体及び化粧料収容皿を、射出成形等の型成形により行うことも可能である。

【００２２】

また、本実施形態の化粧用コンパクトケース１によれば、保護シートを接着剤で固定する場合に比べて、保護シートの固定に手間が掛らないため、化粧用コンパクトケースの製

造効率が良い。また、保護シートの破断や劣化により保護シートを交換したい場合等にも、保護シートの固定が容易であり、例えば、化粧用コンパクトケースの使用者（消費者）自身が保護シートを固定することも容易である。

【００２３】

本発明における張り出し部は、窪み側の面に、抜け防止部を該窪み内から一層抜けにくくする抜け防止手段を有することが好ましい。

本実施形態の化粧用コンパクトケース１においては、斯かる抜け防止手段として、図４に示すように、張り出し部２８の張り出し方向の先端側に下向きに突出した凸部２８ａが形成されている。凸部２８ａは、張り出し部２８の長手方向の全長に亘って連続して形成されているが、張り出し部２８の長手方向における一部のみに形成されていても良い。また、凸部２８ａは、張り出し方向の先端に形成されていることが好ましい。

本実施形態によれば、張り出し部２８が斯かる凸部２８ａを有することによって、折り返し部６９が、張り出し部２８の下側に一層確実に係合し、その係合状態も一層安定化するため、保護シート６の抜けにくさが一層向上する。

また、図示しないが、張り出し部２８の下面を、張り出し方向の基端側が上、先端側が下になるように傾斜させることも、同様の観点から好ましい。張り出し部２８の下面を傾斜させるとともに、張り出し方向の先端側に凸部２８ａを設けても良い。

また、抜け防止手段として、張り出し部２８の下面を粗面に形成したり、張り出し部２８の下面にゴム等の摩擦抵抗を増大させる部材を設けても良い。

【００２４】

皿収容部２３内に化粧料収容皿３を固定した後の隙間７１に保護シート６の取り付け片６２を挿入し易くする観点、及びその挿入部分６３が、化粧料収容皿３の周壁部３３と張り出し部２８との間から抜けにくくする観点から、例えば図５（ｂ）のように折り返しが１回の場合の隙間７１の幅Ｗ（図６参照）は、保護シート６の厚みの、好ましくは２．０倍以上、より好ましくは２．５倍以上、また、好ましくは５倍以下、より好ましくは３倍以下であり、また、好ましくは２．０倍以上５倍以下、より好ましくは２．５倍以上３倍以下である。

【００２５】

本実施形態においては、皿収容部２３の、張り出し部２８を設けた第１側面部２５ａに直交する方向Ｘの長さＬ１と、同方向Ｘにおける化粧料収容皿３の長さＬ２とを調整することにより、前記隙間７１の幅Ｗが前述した好ましい幅となるようにすることが好ましい。即ち、化粧料収容皿３における、第１外壁部３３ａとは反対側の第２外壁部３３ｂを、皿収容部２３の第２側面部２５ｂに密着させるようにして、化粧料収容皿３を皿収容部２３内に配置するだけで、前記の隙間７１の幅Ｗが、予め決められた設計通りの幅となるようにすれば、化粧料収容皿３を、皿収容部２３内に配置する作業の簡単化や迅速化を図ることができる。

【００２６】

また、本実施形態においては、図１及び図６に示すように、皿収容部２３の第１側面部２５ａに形成された窪み２７及び張り出し部２８は、平面視矩形状の皿収容部２３の一辺の全長に亘るように形成されているが、図７に示す第２実施形態の化粧用コンパクトケース１Ａのように、皿収容部２３の該一辺の中央部に該一辺の全長よりも短い長さに形成されていても良い。

第１及び第２実施形態の何れにおいても、保護シート６の挿入部分６３の幅Ｗ２（図１参照）は、皿収容部２３に形成された窪み２７の長さＬ３（図７参照）よりも狭いことが好ましい。窪み２７の長さＬ３は、挿入部分６３の幅Ｗ２に対応するＹ方向の長さである。

保護シート６の固定位置のズレやガタツキを防止する観点から、取り付け片６２の挿入部分６３の幅Ｗ２（図１参照）は、皿収容部２３に形成された窪み２７の長さＬ３（図７参照）の、好ましくは７０％以上１００％未満であり、より好ましくは８０％以上１００％未満である。取り付け片６２の挿入部分６３の幅は、取り付け片６２の先端６２ａ側か

ら基端６２ｂ側の全域に亘って一定であっても良いが、図５（ａ）に示すように一定でなくても良い。挿入部分６３の幅が一定でない場合、前記挿入部分６３の幅Ｗ２は、幅が最大となる部分の幅（最大幅）とする。

【００２７】

本実施形態における保護シート６は、挿入部分６３を、図１や図６（ｂ）に示すような挿入時形態とすることによって、該挿入部分６３を、化粧料収容皿３と皿収容部２３の内壁面２５との間に容易に挿入することができる。

第１及び第２実施形態で用いた保護シート６の挿入部分６３は、図５（ａ）に示すように、取り付け片６２が本体部分６１から突出する方向Ａに直交する方向Ｂ（窪み２７及び張り出し部２８の延在方向に相当する方向）の長さに関し、張り出し部２８の下側に当接する先端縁６７の長さｃより、折り返し部６８の長さｄが短くなっている。つまり、保護シート６は、化粧料収容皿３と皿収容部２３の内壁面２５との間に挿入する際には、図５（ｂ）に示すように、挿入部分６３が折り返した状態とされるが、その挿入時の形態においては、保護シート６の挿入部分６３は、挿入方向先端側（折り返し部６８側）の幅（Ｂ方向の長さ）が、基端６２ｂ側の幅（Ｂ方向の長さ）に比べて短くなっている。これにより、取り付け片６２を、折り返し部６８で折り曲げた状態で、隙間７１に挿入することが容易となる。

また、取り付け片６２の、基端６２ｂから折り返し部６８までの部分の同方向の長さｅも、先端縁６７の長さｃよりも短くなっている。これにより、隙間７１への挿入が一層容易となる。

また、取り付け片６２は、基端６２ｂから折り返し部６８まで長さが、折り返し部６８から先端６２ａまでの長さより長いことが、折り返し易さの点から好ましい。

なお、取り付け片６２の長さｅが基端６２ｂから折り返し部６８の間で一定でなくてもよく、その場合は最大となる部分の長さが先端縁６７の長さｃより短くなっていることが好ましい。

【００２８】

第１実施形態における保護シート６のヒンジ部６６及び折り返し部６８は、それぞれ、保護シート６を構成する合成樹脂製のシートに、直線状の凹部からなる押し罫（罫線）を形成してなる。その押し罫（罫線）は、例えば、通常の金属押し刃での冷間押し、または加熱押しによって形成することができる。押し罫（罫線）は一直線に連続したものでよいが、部分的に押し罫がない部分があってもよい。また、押し罫（罫線）は、保護シートの何れの面に押し刃を押し当てて形成したものであっても良い。また、ヒンジ部６６及び折り返し部６８は、合成樹脂製のシートにミシン目を形成した部分であっても良い。ヒンジ部６６及び折り返し部６８は、耐久性の観点から、単純に曲げを施したものでなく押し罫を形成した部分であることが好ましい。

【００２９】

第１実施形態においては、ケース本体、蓋体の鏡、連結部のピン以外の部分は、例えば、それぞれ合成樹脂の成形品である。蓋体の鏡は、その成形品に接着剤等の公知の手段により固定する。

保護シート６を形成するシートは、合成樹脂製のシートであることが好ましく、例えば、ポリエチレンテレフタレート、ポリプロピレン、ポリカーボネート等の樹脂からなるものや、これらの樹脂などで複数層に形成したもの等を用いることができる。また、保護シートは、不透明のものであっても良いが、透明であることが好ましい。

【００３０】

保護シート６を形成するシートの厚みは、特に制限されず、構成樹脂に応じて適宜の厚みとすることができる。

例えば、構成樹脂が、ポリエチレンテレフタレートやポリプロピレンである場合、保護シートを形成するシートの厚みは、取り付け片に、ある程度の剛性を持たせて、保護シートの抜け防止機能が確実に発現されるようにする観点から、好ましくは０．１ｍｍ以上、更に好ましくは０．２ｍｍ以上であり、また、肌に当たったときの感触や、シートの開閉

力を良好とする観点等から、好ましくは０．４ｍｍ以下、更に好ましくは０．３ｍｍ以下である。第２実施形態に関し、特に説明しない点は、第１実施形態とについての説明が適宜適用される。

【００３１】

図８には、皿収容部２３の張り出し部２８と化粧料収容皿３の第１外壁部３３ａの外面３３ｇ（化粧料収容皿の外壁面）との間の隙間７１の幅Ｗを、予め決められた設計通りの幅とする別の方法が示されている。図８に示す第３実施形態の化粧料コンパクトケース１Ｂにおいては、皿収容部２３の内壁面２５における、窪み２７及び張り出し部２８が設けられた側面部である第１側面部２５ａに、隙間形成用の凸部２９，２９が設けられており、化粧料収容皿３を皿収容部２３に配置する際に、化粧料収容皿３の第１外壁部３３ａの外面３３ｇ（化粧料収容皿の外壁面）を、該凸部２９，２９に当接させることにより、前記の隙間７１の幅Ｗを、予め決められた所定の値とすることができる。

より具体的には、第１側面部２５ａにおける、張り出し部２８を挟むＹ方向の両側に一対の隙間形成用の凸部２９，２９が設けられており、一対の凸部２９，２９に化粧料収容皿３の第１外壁部３３ａに当接させるようにして、化粧料収容皿３を皿収容部２３内に配置するだけで、前記の隙間７１の幅Ｗが、予め決められた所定の幅となる。そのため、化粧料収容皿３を、皿収容部２３内に配置する作業の簡単化や迅速化を図ることができる。なお、図８には、化粧料収容皿３の第２外壁部３３ｂと皿収容部２３の第２側面部２５ｂとが密着した状態が示されているが、第２外壁部３３ｂと皿収容部２３の第２側面部２５ｂとの間には任意の幅の隙間が生じるようにしても良い。

【００３２】

以上、本発明をその好ましい実施形態を示して説明したが、本発明は、上記の実施形態に制限されることなく種々変更可能である。

例えば、本発明における皿収容部２３は、図９に示すケース本体２のように、ヒンジ部６６が延びる方向と同方向Ｙに離間した２箇所に、窪み２７及び張り出し部２８を有するものであっても良い。図９に示す実施形態においては、保護シート６の取り付け片６２は、その基端にヒンジ部６６を有し、取り付け片６２の略全体が、化粧料収容皿３と皿収容部２３の第１側面部２５ａ（内壁面２５）との間に挿入された挿入部分６３となっている。

また、挿入部分６３は、ヒンジ部６６が延びる方向の長さが短い部位７３と長い部位７４とを有しており、長い部位７４における短い部位７３の端縁から延出する部分７５が、図９（ａ）に示すように、挿入部分６３における、張り出し部２８の下側に係合する抜け防止部となっている。

図９においても、取り付け片６２の挿入部分６３の隙間７１への挿入が容易であり、また、挿入後に挿入部分６３が隙間７１から抜けにくい。

図９に示す実施形態に関し、特に説明しない点は、上述した第１実施形態の化粧用コンパクトケース１についての説明が適宜適用され、同様の点については、同様の符号を付してある。

【００３３】

また、本発明における化粧料収容皿は、係合突起と係合凹部との嵌合により、皿収容部内に固定されるものであっても良く、化粧料収容皿を接着剤で固定する場合でもあっても、化粧料収容皿を皿収容部内に固定する態様は種々変形可能である。また、化粧料収容皿は、皿収容部内に脱着可能に固定されるものであっても良いし、脱着不可能に固定されるものであっても良い。

また、ケース本体は、塗布具収容部を有しないものであっても良い。また、化粧用コンパクトケースを正面側から視て前方や後方に、保護シート取り付け用の隙間７１を有するものであっても良い。また、蓋体が横方向に開閉するコンパクトケースでもよい。

【００３４】

また、ケース本体は、平面視形状が、長方形状に代えて正方形や五角形、円形、楕円形、等であっても良い。また、化粧料収容皿や皿収容部も、長方形状に代えて正方形や五角

形、円形、楕円形、等であっても良い。
また、保護シートは、塗布具収容部２２上まで延びていてもよい。
また、一つのコンパクトケースに取り付ける保護シートは複数枚であっても良い。例えば、化粧用コンパクトケースを正面側から見たときの左右方向又は前後方向に２つの化粧料収容皿を設置し、コンパクトケースの左右もしくは前後それぞれから中央部に向かうように２枚の保護シートを取り付けても良い。また、コンパクトケースの中央部に２枚の保護シートの取り付け部を設け、２枚の保護シートを、該中央部から左右もしくは前後両側に向かうように取り付けても良い。

【００３５】

本発明における化粧料収容皿、例えば前述した化粧料収容皿３は、皿収容部２３に取り外し不可能に固定されていても良いが、皿収容部２３から取り外し可能に固定されていることが好ましい。化粧料収容皿が取り外し可能であると、一度固定した保護シートを損傷することなく取り外すことができ、取り外した保護シートをそのまま再利用することが容易となる。ここでいう取り外し可能には、取り外した化粧料収容皿を再度固定できる場合と、取り外した化粧料収容皿を再度固定できない場合とが含まれる。化粧用コンパクトケースは、化粧料を使いきった化粧料収容皿を取り外した後、化粧料が充填された同一構成の別の化粧料収容皿を固定可能であることが好ましい。化粧料収容皿３は、本発明の化粧料収容皿の一実施形態である。

【００３６】

上述した一の実施形態における説明省略部分及び一の実施形態のみが有する要件は、それぞれ他の実施形態に適宜適用することができ、また、各実施形態における要件は、適宜、実施形態間で相互に置換可能である。

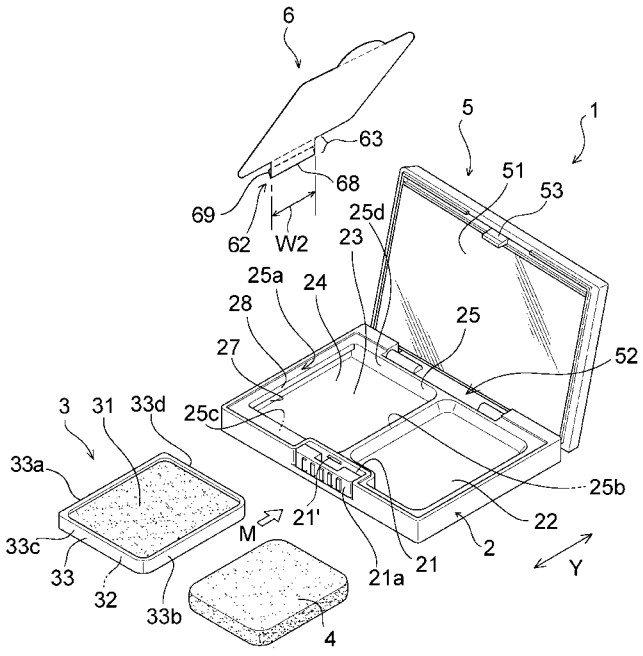
【符号の説明】

【００３７】

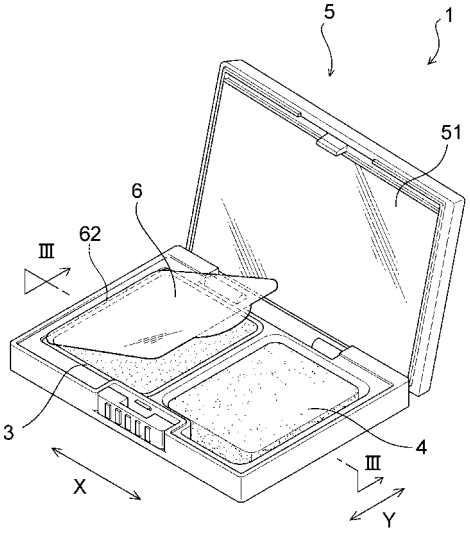
１，１Ａ，１Ｂ　化粧用コンパクトケース
２　ケース本体
　２２　塗布具収容部
　２３　皿収容部
　　２４　底部
　　２５　内壁面
　　２５ａ　第１側面部
　　２５ｂ　第２側面部
　　２５ｃ　前面部
　　２５ｄ　後面部
　　２７　窪み
　　２８　張り出し部
　　２８ａ　凸部（抜け防止手段）
　　２９，２９　隙間形成用の凸部
３　化粧料収容皿
　　３０　接着剤
　　３１　化粧料
　　３２　底部
　　３３　周壁部
　　３３ａ　第１外壁部
　　３３ｂ　第２外壁部
　　３３ｃ　第３外壁部
　　３３ｄ　第４外壁部
４　塗布具
５　蓋体
　　５１　鏡

５２　連結部
６　保護シート
６０　摘み部
６１　本体部分
６２　取り付け片
６２ａ　先端
６２ｂ　基端
６３　挿入部分
６６　ヒンジ部
６７　先端縁
６８　折り返し部
６９　折り返した部分（抜け防止部）
７１　張り出し部と化粧料収容皿の外壁面との間の隙間

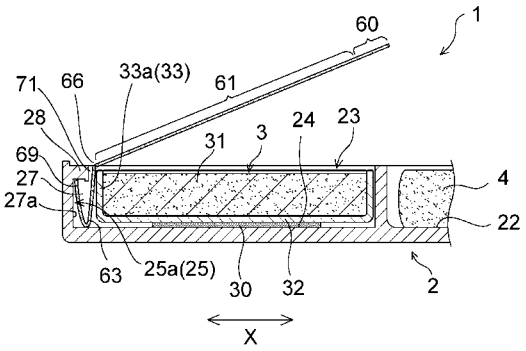
【図１】



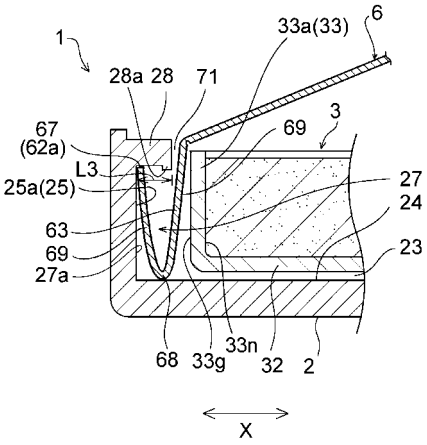
【図２】



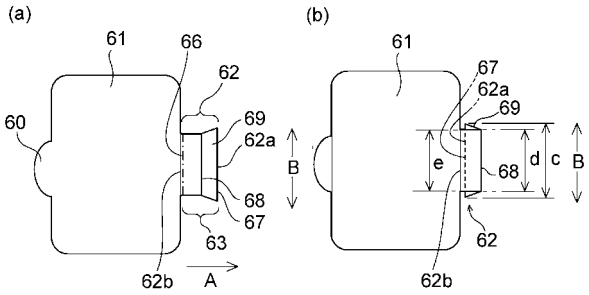
【図３】



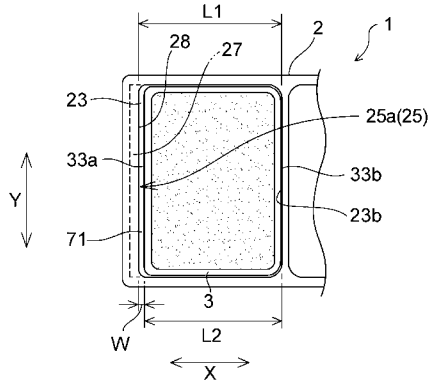
【図４】



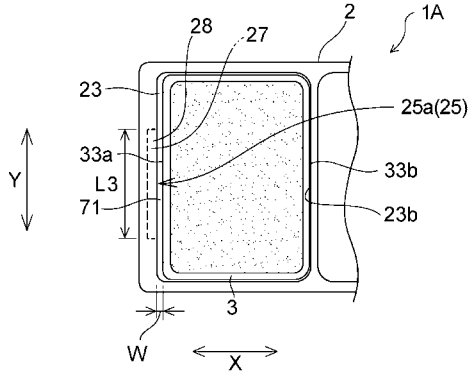
【図５】



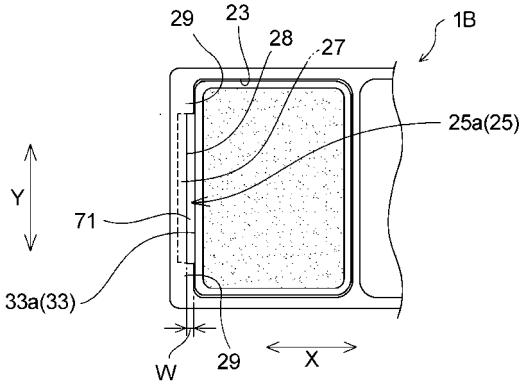
【図６】



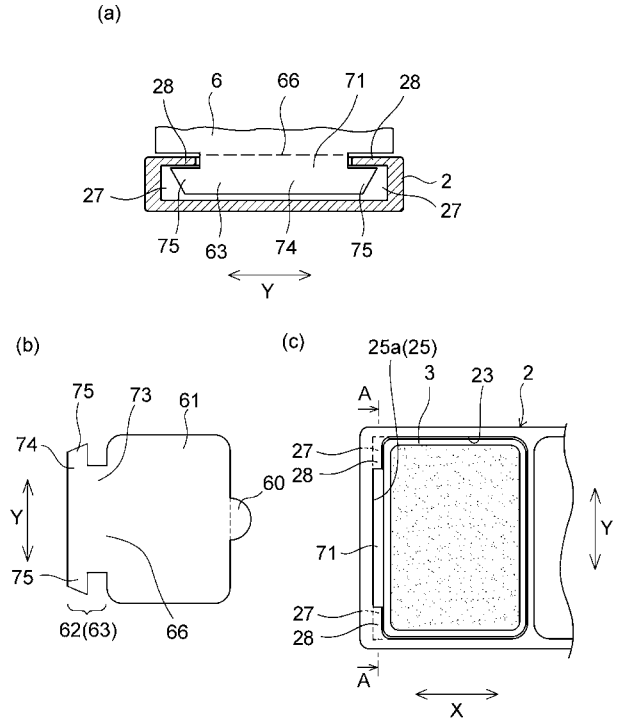
【図７】



【図８】



【図９】


(a)
28
6
66
71
28
27
2
27
75
63
74
75
Y
(b)
75
73
61
74
60
Y
75
62(63)
66
(c)
25a(25)
3
23
2
A
27
28
71
27
28
A
Y
X

フロントページの続き

(72)発明者　上野　知美
東京都墨田区文花２－１－３　　花王株式会社研究所内
(72)発明者　竹内　順子
東京都墨田区文花２－１－３　　花王株式会社研究所内
(72)発明者　岡部　健一
東京都墨田区文花２－１－３　　花王株式会社研究所内